

通学路の安全性向上へ

道内初、2段階横断歩道設置

市道末広通



2段階横断歩道を渡る生徒117日

道路を2回に分けて横断できる道内初の「2段階横断歩道」が、苫小牧東小、東中学校沿いの市道末広通に完成した。2022年度からの校区拡大で登下校する子どもが増えることに対応した措置。市道の中央にガードレールに囲まれた交通島（待機スペース）が設置され、歩行者、ドライバー双方の視認性が高まるなど安全性向上が期待される。

3月13日に完成した2段階横断歩道は、片側2車線の末広通がカーブする東中学校門付近の信号機のない場所に設けられた。中央分離帯に20人程度が待機できる交通島を整備。交通島を境に2本の横断歩道が互いに違いに配置された。

交通島ができたことで歩行者、ドライバー相互の視認性が向上するほか、一度横断する距離が短くな

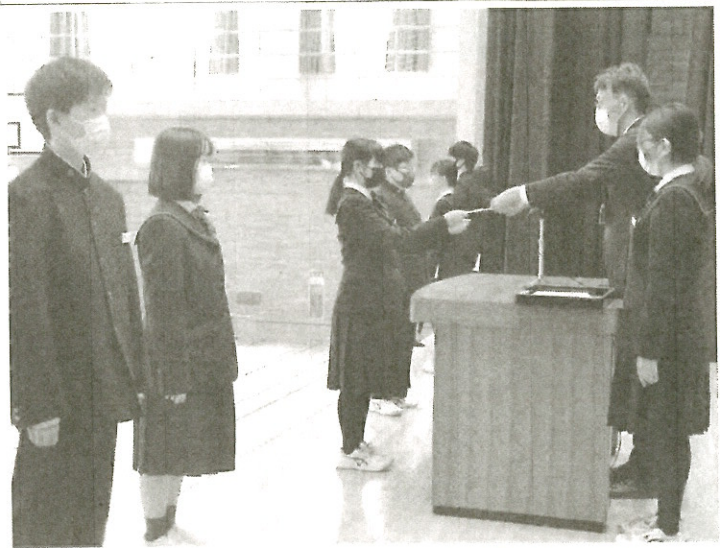
る。苫小牧署交通1課の伊みだ。

同日、交通安全指導のボランティアを行った末広町在住の民生委員田中淳子さんは「信号がなく危険だと感じていた。安全に渡れるようになってよかったです」と話していた。

藤島彦課長は「歩行者がスムーズに安全確認して横断できるようにした」と語

る。7日は市内小中学校の始業式があり早速、新しく完成した横断歩道を渡り、通学する児童生徒らの姿が見られた。新年度に合わせた校区変更で、若草小から東小に編入する児童と東中の生徒を合わせ約60人が2段階横断歩道を利用する見込みだ。

21年8月に行われた市通学路安全推進会議による通学路の安全点検で、末広通は横断歩道が少ないことやカーブによる見通しの悪さなどが指摘され、横断歩道設置の機運が高まっていた。



五十嵐校長から任命書を受け取り、決意を新たにする学級委員長

苫東中 10役職に94人選任 学級役員と生徒会専門委任式

苫小牧東中学校(五十嵐昭広校長、生徒数268人)は19日、同校体育館で今年度前期の学級役員と生徒会専門委員の任命式を行った。10の役職に新たに94人が選任され、生徒たちは自覚と決意を胸に今年度の活動をスタートさせた。

役職は、学級委員長、議

長、書記といった学級の役場で起立した。その後、各学級委員長の9人が、代表生徒として五十嵐校長から任命書を受け取った。

式は、生徒会執行委員会のメンバー12人が進行した。役職ごとに大きく迫力のある声で新役員の名前を1人ずつ呼ぶと、選任された生徒たちは大きな声で「はい」と返事をし、その

生徒会長の3年生、大澤侑羽(ゆう)さん(14)は、「先輩、後輩関係なく言い合える関係になれば」と、より良い学校生活に向けて目標を語った。

3年ぶり中体連壮行会 吹奏楽や横断幕でエール

苫東中

苫小牧東中学校（五十嵐

昭広校長）は2日、体育館で3年ぶりに「中体連壮行会」を開いた。全校生徒2



壇上で大会出場者を応援する美術部の生徒たち

70人が集まり、野球やテニスなど各競技大会に出場する生徒約120人に演奏やダンスでエールを送った。

生徒会主催の恒例行事。同校はサッカー部や卓球部など13の部活動を有し、7割の生徒が部活動に加入している。

壮行会では、ユニフォームに身を包んだ大会出場生徒が吹奏楽部の演奏に背中を押されながら、体育館に入場。各部門員が決意発表を行った後、美術部と吹奏

楽部がパフォーマンスを繰り広げた。

両部は4月下旬からパフォーマンスの準備を重ねてきたといい、美術部員が描いた「限界突破」流されるな波に乗れ」といったメッセージ入り横断幕（縦14×横4）も披露。大会に出場する生徒たちから、喜びや感謝の拍手が湧き起こっていた。

野球部の3年橘虎河（たが）部長（14）は初めての壮行会に感激した様子で「期待に応えられるよう、まずは1勝することが目標」と意気込みを語った。

ICT教育研究へ部会／小中乗り入れ授業

中1ギャップ解消へ連携

苫小牧市立東中学校(270人、五十嵐昭広校長)の校区で、小学校から中学校への進学時の環境変化に悩む「中1ギャップ」を防ぐ取り組みが進んでいる。授業でタブレット端末などを使う情報通信技術(ICT)教育が昨年度から本格導入されたことを受け、円滑な指導方法を研究するICT教育部会を今春、新設したほか、小中学校の教員が互いの学校に出向く「乗り入れ授業」を行うなど、教育環境の整備を先んじて推進している。

(竹田菜七)

市内15の中学校区のうち、東中、東小、若草小の3校で構成する東中学校区は現在、市教委の「苫小牧型小中連携教育研究実践校」に指定されている。その活動の一環として、部会を設けた。

5月20日に開かれた第1回の会議では、3校の教諭計14人が参加し、意見交換した。各校のオンライン学習の現状について、「ローマ字を習う前の小学低学年だとタブレット端末のキーボード操作が難しい」「先

東中学校区に新設された「ICT教育部会」。初回は3校計14人の小中学校教諭が意見交換した



生の力量で進み具合に差がある」などの声が出るなど、ICT教育を巡るさまざまな課題が指摘された。

部会では今後、さらに議論や実践授業を重ね、タブレット端末の活用について、小中学校での学習内容

や学ぶ順序などをまとめた「系統表」を作成する計画だ。東中の藤田哲郎教諭(35)は「子どもたちがICTを文房具のように活用していけたら」と意気込む。

同校区では「乗り入れ授業」も活発だ。東中の教諭が東小、若草小で授業を行うほか、夏休みには数学に苦手意識を持つ東中の1年生を対象に、小学校の教員が算数・数学の授業を行っている。かつての担任教師を小学校から招くことで学び直しがしやすい環境をつくり、苦手克服につながっているという。

五十嵐校長は「中1ギャップ」解消について、「決め手は教員同士の連携。学級担任制から教科担任制への変更など、小学校と中学校の学習環境は異なる。各教員がその違いを理解した上で、小学校から中学校へのスムーズな『接続』になげたい」と話した。

伝統楽器の魅力堪能

3年に1度の芸術鑑賞会

苫小牧東中

苫小牧東中学校(五十嵐昭広校長)は9日、同校体育館で和楽器奏者と民謡歌手を迎え、芸術鑑賞会を開いた。全校生徒270人が、目の前で繰り広げられる迫力の舞台に引き付けられた。



同校PTAの協力を得て、3年に1度実施している芸術鑑賞会。今回は日本の伝統的な楽器に触れてもらおうと、津軽三味線や和太鼓奏者に出演を依頼した。

札幌市出身の新田昌弘さん(38)と安平町出身のしんたさん(37)による和楽器ユニット「和心ブラザーズ」と、千歳市出身の民謡

歌手、井上つよしさん(23)が来校。和心ブラザーズは葉加瀬太郎さんの「情熱大陸」やオリジナル曲「アイズビート」を奏で、井上さんは富山県の民謡「こきりこ節」や「ソーラン節」を歌い上げた。生徒たちは演奏が1曲終わるごとに大きな拍手を送っていた。

津軽三味線と和太鼓を体験する時間も設けられ、各学年の生徒が2人ずつチャレンジした。初めて和太鼓をたたいた3年生の田口大心さん(14)は「うまくたたけた」と笑顔。「エネルギーギッシュなステージで、とても楽しかった」と話した。



学年超え「おはよう！」

東小・中、合同あいさつ運動

苫小牧東小学校（柴田知 巳校長）と東中学校（五十嵐昭広校長）は11～15日の

5日間、登校時間に児童と

登校児童にあいさつする生徒会のメンバーら

生徒と一緒に玄関前に立ち、あいさつする「あいさつ運動キャンペーン」を行っている。併設校の特徴を生かし、両校の交流を促進する小中連携プロジェクトの一環。両校の児童会と生徒会が主催し、昨年からは実施している。

小学4年生と中学3年生約20人が小中交えて二つのグループをつくり、それぞれの玄関前に立った。午前7時45分～同8時までの15分間、登校してくる児童生徒に元気よく「おはようございます」と呼び掛けた。

「朝からみんなのあいさつを聞けて気持ちいい。今後も続けてほしい」と児童会会長の6年高橋智哉君（11）。生徒会副会長の3年の桜井秀さん（15）も「児童会とあまり関わりがないので新鮮」とほほ笑んだ。

国語授業一環でインタビュー

苫小牧東小6年が苫東中2年に

苫小牧東小学校(柴田知巳校長)の6年生24人は11日、同校に併設される苫小牧東中学校(五十嵐昭宏校長)の2年生80人に中学校生活について知りたいことをインタビューした。文章を執筆する国語授業の一環で、児童たちは説得力のある文章作りのため、積極的に生徒に質問した。



部活動やテスト勉強の仕方について中学生に質問する児童(左)

国語科の「具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書く」という学習(1) 私たちにできること」をテーマに文章を書くため

の取り組み。

苫東小では、国語授業の中で部活動など中学生になることができることについて学習を進めており、中学校進学への意識を高める機会にもなればと、苫東中生徒へのインタビューを企画した。

児童1人に対し、3人の生徒で6分間対応した。児童たちは「どんな部活動がありますか」「テストに向けてどのぐらいの時間勉強しますか」といった質問を投げ掛けた。生徒は一つ一つの質問に丁寧に優しく答えていた。

苫東小の大谷美乃莉さん(12)は「事前に考えていた質問をちゃんと聞けた。部活動や勉強のことがよく分かり、中学に行くのが楽しみになった。これから文章を考えたい」と目を輝かせた。苫東中の岩下仁子(さとね)さん(13)は「お互いに緊張したけれど、真剣に質問してくれる姿勢がうれしかった」と笑顔だった。

東小6年に学習成果発表 苫東中、連携プロジェクト



自分たちで編集した動画を見せる生徒たち

環。下級生に発表風景を見てもらうことでプレゼンの質を高め、小学生には中学校生活のイメージをつかんでもらうのが狙いだ。

1年生は7月6日に訪れた白老町の民族共生象徴空間（ウポポイ）、2年生は同5～6日の札幌での宿泊研修での学びを発表した。

2年生は動画編集に挑戦した。効果音を付けたり、レポーターに成り切って撮影したりと、班ごとにさまざまな。各班10分程度でプレゼンした。

「グループごとに動画の雰囲気は異なり、見ていて面白かった」と東中の2年木川田航大さん（13）。東小の6年苫米地結利愛さん（11）は「タブレットで、背景変更や動画の編集はしたことがないので、やりたかった」と話した。

苫小牧東中学校（五十嵐昭広校長）の1、2年生173人は27日、体験学習や宿泊研修で学んだ内容を苫小牧東小学校の6年生30人に披露する「総合的な学習に披露する」中連携プロジェクトの一

の時間 発表会を開いた。生徒はタブレット端末を片手に発表し、児童はじっくりと耳を傾けていた。両校の交流を促進する小

も課題に環境通信

向上スキルICT | 増え活用授業

苫小牧市 1人1台タブレット2年目



ICT機器を駆使し発表する生徒 || 苫小牧東中学校

児童生徒1人に1台のタブレット端末を導入して2年。苫小牧市内の中学校は、授業でのタブレット活用機会が増えてICT(情報通信技術)スキルの向上が見られる一方、通信環境が不安定になるなど学校や自宅での使用に課題も見つかっている。市教育委員会は「夏休み期間中に通信環境について調査し、改善に向けた対策を検討する」と話す。

東中学校(五十嵐昭広校長、270人)は7月1日、ICTを駆使した授業参観を実施した。3年生はタブレットを片手に5月16~18日の修学旅行での出来事を発表。事前に写真を取り込んでパワーポイントにまとめ、テレビ画面を見せながら保護者らに説明した。

高桑凜さん(14)は「タブレットで文字を打ち込むのが難しかったが、だんだん慣れてきた」と言い、五十嵐校長も「昨年に比べてスキルが上がっている」と評価した。発表を見た保護

者の主婦(50)は「今の子どもは時代に対応しているすごい」と感心していた。啓明中学校(荒川歩校長、331人)は7月20~22日、各学年ごとに自宅でタブレットを接続し、オンライン学習が可能かを確認する「試験的オンライン学習」

を実施。22日は3学年101人が学校からタブレットを持ち帰った。

3年2組は初めて画面越しに授業を行い、道下靖志教諭(50)は「たまに音声が届かなかったが、目標だったお互いの顔を見ることが、声を聞くことはできた」と安心。一方で「まだ黒板を使った授業ができていない。画面を通して文字が見えるのか」と不安材料を挙げた。同校のICT担当の尾形祐樹教諭(26)も「一度に大人数がつなぐと回線が重い」と問題点を指摘。「今後、実際に自宅とつないで授業する場合に教員がどれだけタブレットに慣れているかが課題」と話した。ウトナイ中のICT担当

の秋田知宏教諭(27)は「昨年度は慣れるのに精いっぱいだった。今年度は活用できるようなり、いろいろな場所で調べ学習ができるようになった」と学習の質が上がったことを評価しながらも、「全員同時につなぐと、やばい感じがする」と問題点を指摘した。



英語の授業を受ける児童たち

小6が中1学習先取り

苫東中で夏休み学習会

苫小牧東中学校（五十嵐昭広校長）は、7月29日から8月3日にかけて4日間、夏休み学習会を校内な

小中連携事業の一環で、中学校の教員や勉強などに慣れてもらうことが狙い。2日は苫小牧東、若草、苫小牧西の3小学校から参加を希望した24人が来校。同中学校の教員による数学と英語の授業を受けた。英語では外国語指導助手（ALT）も授業に加わった。児童たちは趣味や出身地などの自己紹介をした後、中学1年生で学習する英文法を学習し、ペアになって会話を練習した。他校の児童とも英会話で交流した。

若草小の大宮夢結さん（12）は「他の小学校の子と話すことができて良かった。授業は面白かったし、ALTの先生も優しくかった」と笑顔を見せた。

授業を担当した渡部尚美教諭は「前向きに授業に参加してくれて理解も早かった」と話した。